

特 72
96

東京集治監規程類纂

東京集治監庶務課編輯

明治十七年九月刊行

301638-001-0

特72-96

現行東京集治監規程類纂

東京集治監庶務課

M17.9

BBS-0001

|||||

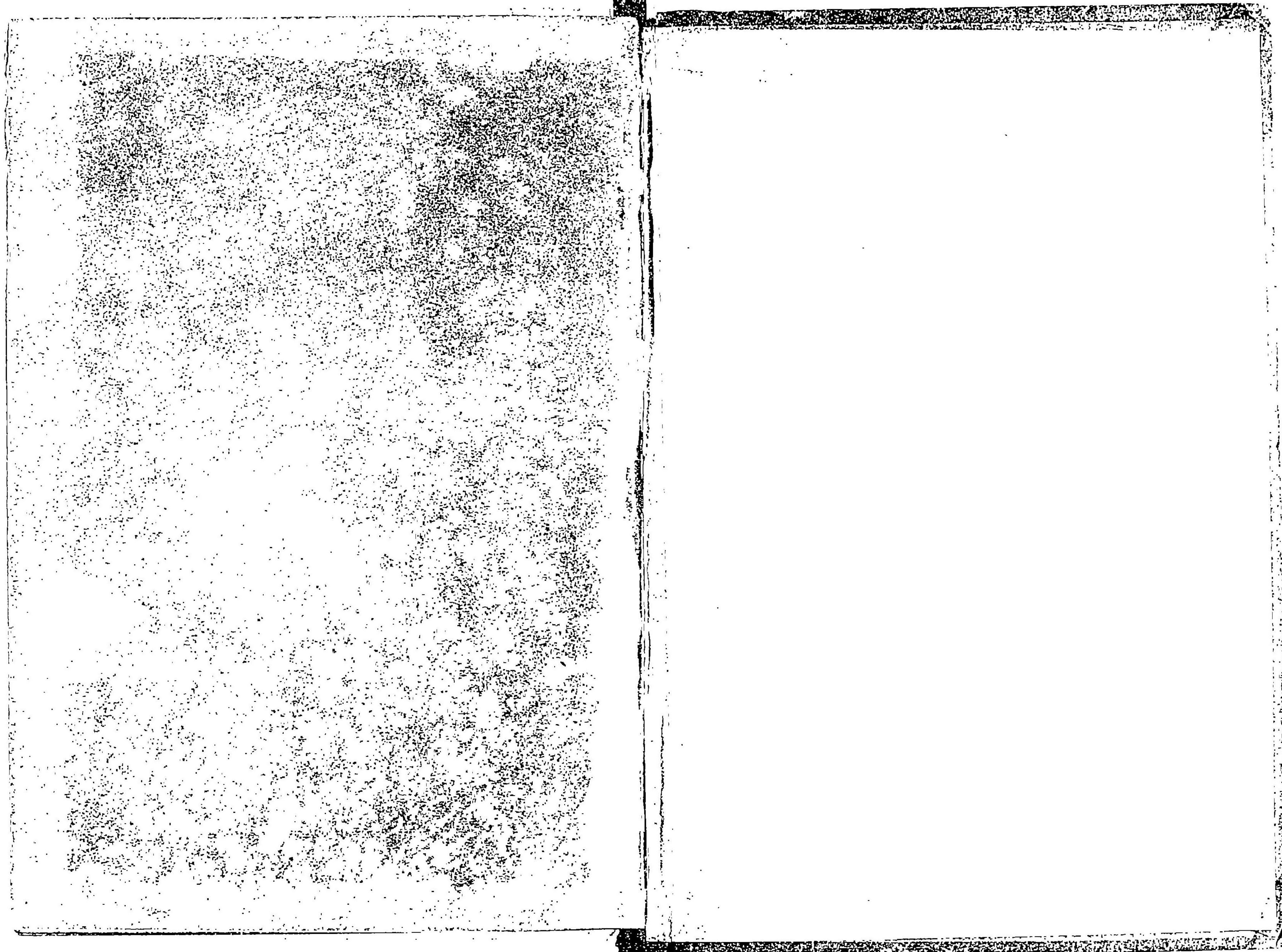
特 72

96

東京集治監庶務課編輯

現東京集治監規程類纂

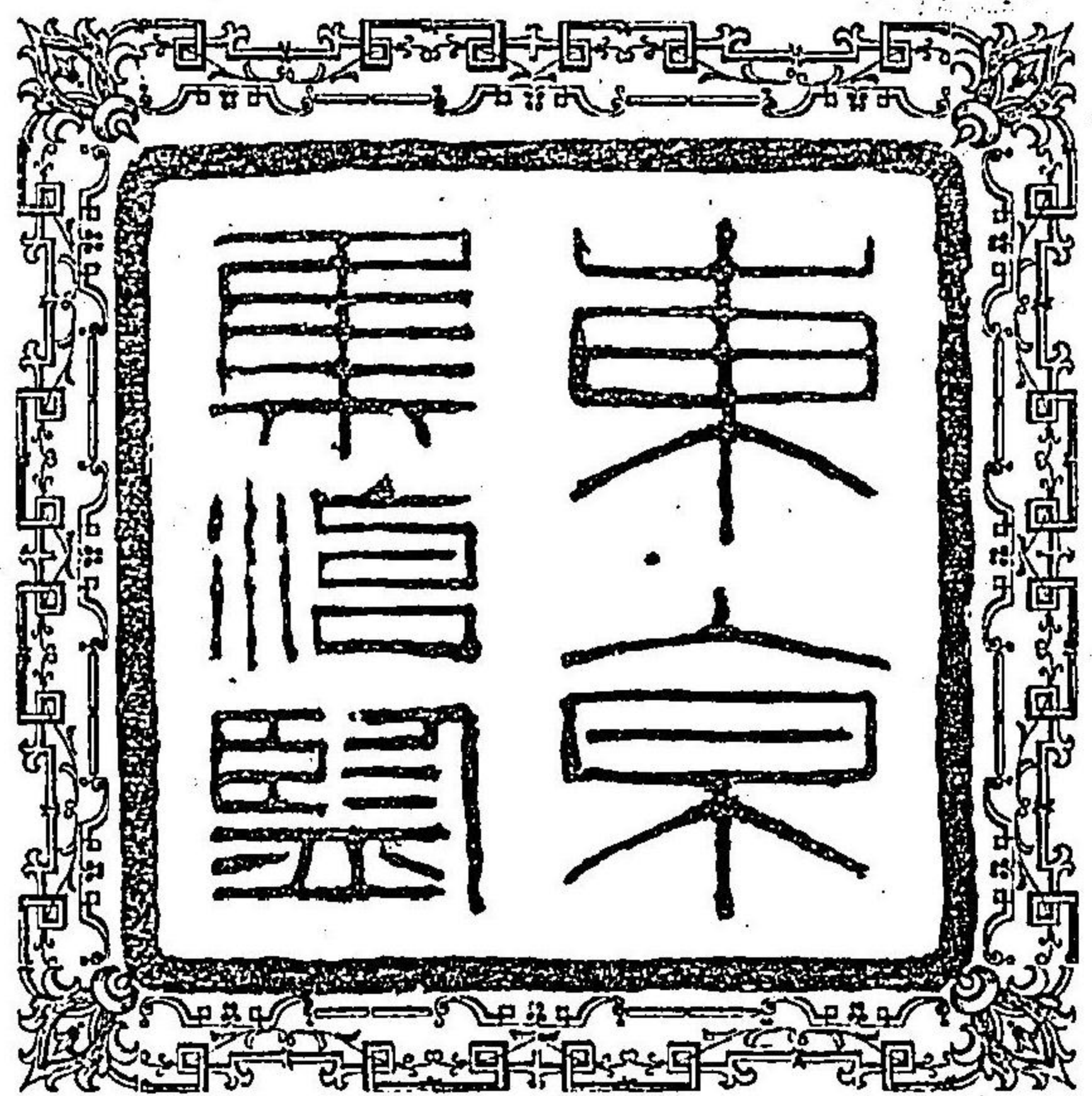
明治十七年九月刊行



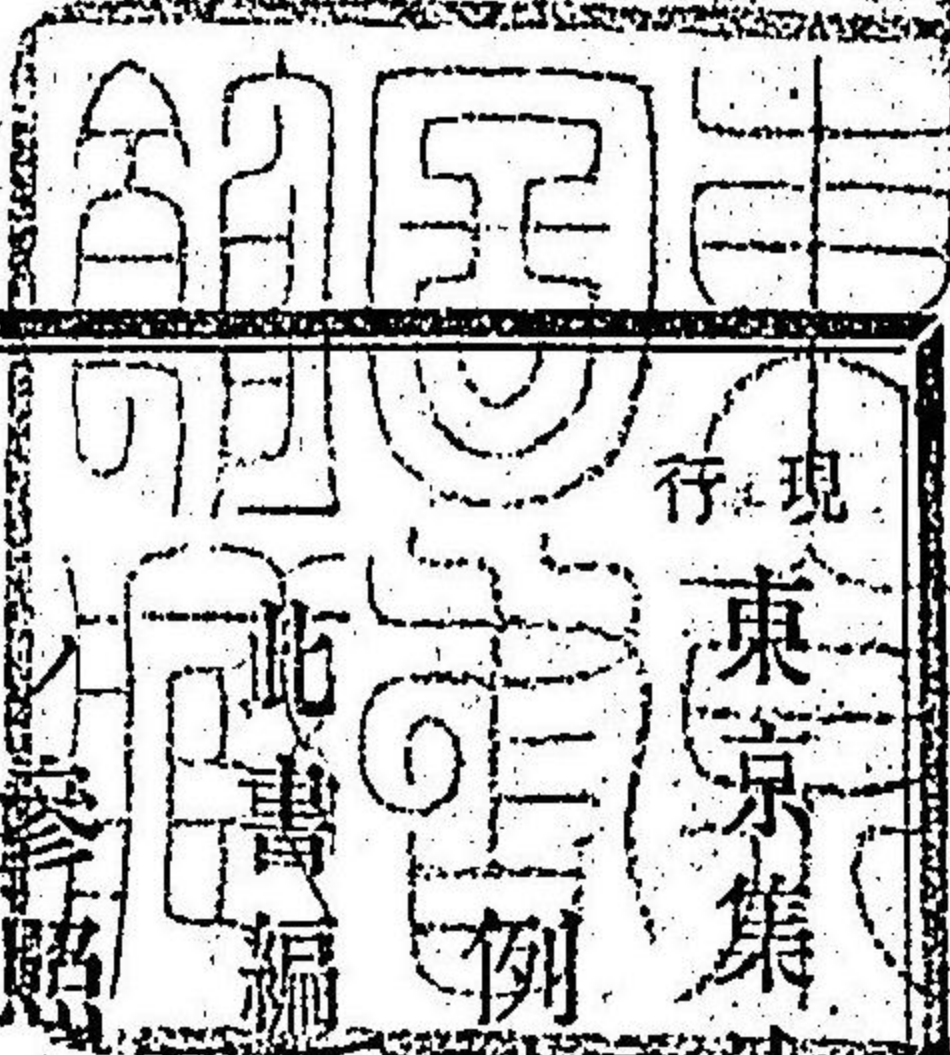
東京集治監庶務課編輯

現行東京集治監規程類纂

明治十七年九月刊行



特72
96



現行

東京集治監規程類纂

言

此書編纂ノ旨要ハ當監ノ吏員日常服務ノ際事ヲ處スル
 參照ニ供センカ爲メ置監以來署中ニ於テ施行シタル
 内規定例及ヒ順序等ノ中ニ就キテ其既ニ廢滅ニ屬スル
 モノヲ除棄シ現存行施ニ係ルモノハ探テ之レヲ類別シ
 録シテ以テ本編ノ條款ト爲シ尙ホ之レカ因由ヲ窮查ス
 ルノ簡便ヲ計リ特ニ法章中二三ノ正條ヲ拔萃シ或ハ稟
 伺請訓回答ノ類ヲ併記シ本編條款ノ參觀ト爲ス然レモ
 敢テ周備ヲ要セス尙ホ追日之レカ續編ヲ起稿シテ以テ

增補改修スル所アラントス

一本書別チテ九類ト爲ス其一ハ事務分掌其二ハ官房事務
其三ハ庶務其四ハ工業其五ハ會計其六ハ警守其七ハ病
院其八ハ教誨其九ヲ雜件ト爲ス

一本編書式必シモ一體ナラス大約公布告達ハ上欄ニ掲記
シ稟伺内訓照會等ハ每類末ニ雜款トシテ掲記スルヲ通
例トシ其本欄内ニ條列スルモノハ皆〔〕ヲ以テ區書シ參
觀ト記シ或ハ時トシテ其公布告達ノ數條ナル上欄中ニ
填塞シカタキモノハ〔參看〕ト區書シテ本欄内ニ記入ス
一本書ニ錄載スル處ノ稟伺ハ專ラ内務司法兩省ニ對シ本

監ノ稟伺ニ限り敢テ他ノ發議ニ係ルモノヲ列舉セス其
請訓ハ本省ノ訓令而已ヲ掲記ス

一本書上欄ヲ設クルモノハ之レヲ使用スルモノ仍ホ詳細
ニ他ノ法章ヲ掲記シ或ハ更改増減ノ理由ヲ付スルノ便
ニ供センカ爲ナリ

一本書ハ當監ノ吏員各自謄寫シテ常ニ携帯スヘキ處事務
鞅掌之レヲ爲スノ閑ナシ故ニ其勞ヲ省カンカ爲メニ印
刷ニ付スト雖モ肯テ販賣スルモノニ非ラス

明治十七年九月

編者誌

行現 東京集治監規程類纂目次

第一類

事務分掌

課務細則

各課掌務通則

第二類

官房事務

署員宿直心得

署員休暇例

履歷書式

辭令書式

諸願伺届

勤怠簿

壹 丁

九 丁

拾 五 丁

拾 九 丁

二十 二 丁

二十 三 丁

二十 五 丁

二十 五 丁

第三類

庶務

新ニ入監ノ囚徒取扱順序

接見取扱手續

裁判所ノ嘱托ニ依リ在監人ニ送達スヘキ書類取扱手續

賞譽施行順序

仮出獄宣告狀及ヒ特赦狀下付執行順序

仮出獄上請ニ要スヘキ書類調理

懲罰内規 附例圖

新年式及ヒ歳末祝詞

原籍票

職員分課表

訓詞

二十 六 丁

二十 八 丁

二十 八 丁

三十 一 丁

四十 五 丁

五十 六 丁

五十 八 丁

六十 一 丁

七十 一 丁

八十 四 丁

九十 六 丁

處罰案審查概例	百一丁
處罰案審查書式	百十三丁
物品購與規則	百二十八丁
小買物持出場揭示	百三十丁
購與品取扱順序	百三十一丁
<small>囚徒携有ノ物件及工錢等領置ノ手續</small>	百三十六丁
已決囚名籍調理	百四十一丁
圖書管理規程	百五十九丁
監獄則要領拔萃	百六十七丁
監房內揭示	百八十五丁
雜款	百八十九丁
第四類	
工業	

二百二十一丁

第五類

工業事務規程

會計

會計規程

豫算

看守押丁貸與支給品

使丁給與品

証書類調理順序細節

雜款

第六類

警守

看守長看守出勤

看守帶劍心得

三百四十九丁
三百五十丁

看守懲罰例	三百五十二丁
看守服務規程	三百五十三丁
看守交番ノ心得	三百五十八丁
表門外見張所規則	三百六十八丁
見張所看守押丁勤務心得	三百六十九丁
小喇叭及ヒ小旗取扱心得	三百七十二丁
非常ノ節心得方	三百七十三丁
合宿規則	三百七十七丁
看守會議例	三百八十一丁
議場通則	三百八十四丁
囚徒行狀視察規程	三百八十八丁
日表	四百零八丁
囚徒ノ官吏ニ對スル禮式	四百十一丁

第七類

病院

開閉監時限表	四百十二丁
雜款	四百十四丁
醫師以下俸給表	四百十九丁
醫師藥劑生分掌細則	四百二十丁
醫師以下任用規定	四百二十三丁
正副院長服務心得	四百二十四丁
正副當直醫服務心得	四百二十六丁
藥劑生服務心得	四百三十丁
屍體解剖	四百四十一丁
衛生統計諸表	四百四十六丁

第八類

教誨

就學程限

四百五十七丁

學室揭示

四百六十一丁

就學者授業ノ要領

四百六十四丁

教誨師服務規程

四百六十五丁

就學者名簿

四百七十三丁

第九類

雜件

看守志願書身元保証書薦舉書式及ヒ授業手押丁志願書式

四百七十五丁

筆紙墨等受取方ノ義ニ付達

四百七十九丁

反古取纏メ方ノ義ニ付達

四百七十九丁

金錢受渡等ノ証印勘合ノ義ニ付達

四百七十九丁

飲料水ノ義ニ付達

四百八十丁

本省へ稟伺ノ諸件

四百八十丁

犯則ニ關スル物件并遺失物處分ノ義ニ付警守課長ノ伺ニ對ス指令及ヒ訓諭

四百八十四丁

憲兵ニ對スル禮節ノ義ニ付達

四百八十八丁

煉化石販賣所へノ命令書

四百八十八丁

本省ノ達

四百九十六丁

本省へ稟伺ノ件

五百丁

東京集治監一覽概表及ヒ略圖

五百五丁

建物建築購入ノ年月日及ヒ其費額明細書

五百四十五丁

行現東京集治監規程類纂目次畢

〔參觀〕

明治十二年四月太政

官第拾七號公達

今般東京府下葛飾郡

小菅村宮城縣下宮城

郡小泉村ノ兩所ニ集

治監ヲ置キ獄司以下

官等左ノ通相定内務

省直管セシメ候條此

旨相達候事

獄司以下官等改正

ニ付畧ス

明治十四年三月第十

四號公達

内務省所管集治監獄

司以下官等俸給左ノ

通改定候條此旨相達

東京集治監規程類纂

第一類

事務分掌

○課務細則十五年四月達第拾四號

書記

本官ノ掌務別テ庶務工業會計ノ三課及ヒ職務ノ一掛ト爲ス

庶務課ハ左款ノ事務ヲ分任ス

一囚籍ヲ調理シ其出入増減病故死亡ヲ録シ及ヒ

釋放日限ヲ掲表スルヲ

二囚徒ノ携有物ヲ檢收シ服役者ノ工錢ヲ領置シ

其願訴ヲ收領スルヲ

三囚徒ノ教誨ニ關スル庶用ヲ辨シ教誨師講説ノ

候事

奏任

典獄

月俸 百五拾圓

百廿圓

百圓

八拾圓

判任

副典獄

月俸 七拾五圓

六拾圓

書記

看守長

月俸 五拾圓

四拾五圓

三拾五圓

三拾圓

廿五圓

廿圓

時々臨席スルヲ

四病院ノ庶務ヲ兼攝スルヲ

五各課分任事務ノ諸議案ヲ稽查スルヲ

六上司ニ呈スル諸計表ヲ調理スルヲ

七諸文書ヲ淨寫シ及ヒ往復ノ書翰ヲ收理スルヲ

八公布類ニ付書シテ署員ノ回覽ニ供シ及ヒ諸書

ヲ編纂スルヲ

九署中一切ノ書籍ヲ管理スルヲ

十未タ分任ノ定マラサル臨時ノ事務ヲ辨スルヲ

〔十六年十月廿五日達第三拾三號〕

自今立關へ受付ヲ置キ庶務課之部内ニ屬シ凡ソ他廳ヨリ來ル文書ヲ取次及ヒ外來人ノ紹介等爲致候條此旨相達候事

拾五圓

等外

看守

月俸 拾圓以下

明治十四年三月第十

九號公達

内務省所管集治監職

制左ノ通相定候條此

旨相達候事

職制

典獄

一内務卿ノ指揮ヲ受

ケ書記看守長以下

ヲ統率シ監署ノ事

務ヲ總理ス

二判任官ノ進退黜陟

工業課ハ左款ノ事務ヲ分任ス

一服役ノ囚徒ニ課スル工業ノ得失興廢ニ關スル

一切ノ方案ヲ作シ其工業ニ要スル材料器具ノ

數量ト適否トヲ查覈スルヲ

二服役ノ囚徒ニ工業ヲ科程シ其製品ノ多寡ト精

粗ヲ審査シ之カ品位ヲ定メ其員額ヲ會計ニ報

告スルヲ

三成規ノ率ニ由リ役囚ニ給與スヘキ工錢ノ額ヲ

料定シ之ヲ會計ニ移牒スルヲ

四工業上ノ實況ヲ掲表シ之ヲ典獄ニ報スルヲ

會計課ハ左款ノ事務ヲ分任ス

一會計ノ法規ニ從ヒ署中一切ノ經費ヲ豫算シ金

錢物品ノ出納ヲ掌リ總テノ簿冊ヲ整理シ其決

ハ内務卿ニ具狀シ
 等外吏及ヒ傭人ノ
 進退黜陟ハ之ヲ專
 行ス
 副典獄
 掌典獄ニ亞シ
 書記
 各其主務ニ従事ス
 看守長
 監獄ノ戒護ヲ掌リ
 兼テ看守ノ勤惰ヲ
 視察ス
 看守
 監獄ノ戒護ニ従事
 ス
 明治十四年三月本省
 乾監第二百廿壹號達

算報告書ヲ作ル
 二署中ノ需用ニ供スル物品其他工業ニ要スル材
 料器具ノ調度ヲ掌リ其授與還納及ヒ保存ノ方
 法ヲ立ツル
 三工業ノ製品ヲ領シ販賣ノ事ヲ掌リ及ヒ其照會
 應接又ハ契約等ノ事ヲ管理スル
 四署中營繕ノ事ヲ管理シ兼テ屬地内ニ在ル樹木
 竹石ノ類ヲ保管スル
 職務掛ハ左款ノ事務ヲ分任ス
 一典獄官房庶用ヲ辨シ時々其命令書ヲ淨寫スル
 二署員ノ履歷書ヲ收理シ及ヒ其職務ニ關スル文
 書ヲ編綴保管スル

其監事務章程雜則並
 ニ書記看守長以下分
 掌例及ヒ傭人分課例
 別番ノ通相定候條此
 旨相達候事
 集治監事務章程
 集治監ノ事務内務卿
 ノ准許ヲ經テ施行ス
 ヘキモノ左ノ條件ト
 ス其他ハ典獄之ヲ專
 行ス
 第一條 判任官ノ褒
 賞及ヒ懲戒ノ事
 第二條 五拾圓以上
 ノ費額ヲ要スル官
 舎監獄新營ノ事
 第三條 三百圓以上
 ノ費額ヲ要スル官
 舎監獄修繕ノ事
 第四條 新ニ事ヲ創

看守長
 本官ノ掌務ハ單ニ警守課ト爲シ左款ノ事務ヲ負荷
 ス
 一監獄ノ戒護上ニ關スル總務ヲ掌リ看守授業手
 押丁ノ勤惰ヲ監督スル
 二押送シ來ル囚徒ヲ領シ身体衣服ノ搜檢ニ監臨
 シ其居房ヲ指示スル
 三監外ニ囚徒ヲ押發スル時ト其監内ニ歸ルルハ
 看守ニ指示シ可適ノ戒護ヲ爲サシムル
 四朝暮囚徒ヲ點檢シ其出入増減病故ヲ詳悉シ常
 ニ其賞譽スヘキ者ト犯則者ノ有無ヲ稽シ監房

メ又ハ舊規ヲ變更
スル事

雜則

第一條 官吏備人ヲ
問ハス漫リニ在監
人ト談言シ又ハ其
聽得可キ所ニ於テ
檢束上ニ係ルコトヲ
辨論シ若クハ雜話
等ヲ爲スヲ禁ス

第二條 授業手及押
丁ヲ備フニハ必ス
保人ノ押印ヲ具シ
タル證書ヲ納レシ
ムヘシ但證書ニハ
監署ノ規則ヲ遵奉
シ特ニ在監人ノ囑
託ヲ受ケ他人ニ通
信シ或ハ物件ノ贈
答ニ媒介セサルコ

内外ノ洒掃ヲ查閲シ飲食ノ配與器具點檢等ニ
臨監シ毎日其實況ヲ典獄ニ報スルコト

五 獄則違犯ノ囚徒ヲ尋問シ之レカ調書ヲ作り其
處罰ノ意見ヲ具シ又ハ刑法ニ按ヘキ罪ヲ犯シ

タル囚徒アルキ其罪件ヲ記述スルコト

六 囚徒ヲ賞罰シタル來囚ヲ其行狀簿ニ俱載スル

コト

七 傳告者誘工者ノ撰定又ハ罷免スルノ案ヲ立テ

八 囚徒ノ書信ヲ查閲シ及ヒ其願訴ヲ主任ノ課中

ニ告知スルコト

九 囚徒ノ作業ヲ督勵シテ其科程ヲ終ヘシメ手技

ノ巧拙ヲ記取スルコト

十 工業科程簿ニ各服役者ノ日科程ヲ全ク終ヘシ

ヲ詳記セシムヘシ

第三條 官廳若クハ

人民ヨリ服役ノ囚

徒ヲ工事ニ備役セ

ント求ムルコトアル

トハ便否得失ヲ考

ヘ條約ヲナシテ其

求ニ應スヘシ

第四條 在監人死亡

シ假葬シタル遺骸

ヲ改葬セント監署

ニ請フ者アルトハ

之ヲ許可シ其旨ヲ

警察官ニ通告スヘ

シ

書記看守長以下分

掌例

書記
一 在監人ノ名籍ヲ調
理シ囚徒ノ携有物

メタルト否トヲ詳記シ及ヒ其器具ノ授與還納

ニ臨監スルコト

十一 工業ノ科程若シ服役者ノ体力ニ適應セサル

狀情アルトキハ其科程ヲ減スヘキ意見ヲ典獄

ニ稟議スルコト

看守掌務

一 看守ハ看守長ノ指揮ヲ受ケ各々其部發ノ所ニ

在テ晝夜ニ交番シ囚徒ヲ看守シ又時々宜ク部

手シテ受持場ヲ警巡スヘシ

二 監門ヲ警守シ病囚ノ醫治ニ立會ヒ及ヒ監外ニ

押發ノ囚徒ヲ戒護スヘシ

三 常ニ受持タル囚徒ノ氏名年齢貫籍罪質刑名等

ヲ手簿ニ録シテ之ヲ記憶シ又其出入増減疾病

ヲ檢収シ工業ニ關
スル應用ヲ辨シ簿
計其他ノ署務ヲ分
掌ス

看守長

- 一 看守授業手押丁ノ勤惰ヲ監督シ囚徒ノ出入増減病故及ヒ其犯則ノ有無ヲ稽査シ監房内外ノ洒掃ヲ査閱シ飲食ノ配與器具ノ點檢等ニ臨監ス
- 二 服役ノ囚ニ課スル工業ノ科程ヲ典獄ニ稟議シテ其作業ヲ督勵ス
- 看守
一 晝夜交番シテ受持場ヲ巡警シ及ヒ監

及ヒ平素ノ動作如何ニ注意シ典獄其他ノ官吏不時尋問スル時ノ用ニ供スヘシ

四日々各監房ノ常置器械ヲ點檢シテ囚徒ノ不良心ヲ警メ若シ異常ノヲアレハ直チニ看守長又ハ本署ニ告知スヘシ

五常ニ受持ツ所ノ服役者ヲ工役場ニ引致シテ戒護監督シ其動止ヲ令スヘシ

六 服役ノ囚作業ニ關セサル他事ヲ交談シ或ハ他人ニ聲語シ或ハ漫リニ部外ノ工場ニ到ルカ如キ舉動ヲ制禁スヘシ

七 常ニ受持ツ所ノ囚徒ヨリ口述又ハ書面ヲ以テ願訴ニ及フキハ看守長ニ之ヲ致スヘシ若一辭ノ口述ニ盡シ難ク且ツ文字ヲ書スル能ハサル

門ヲ守リ監外ニ押發ノ囚徒ヲ戒護シ病囚ノ醫治ニ立會ヒ日々監中ノ器具ヲ點檢ス

二 服役ノ囚徒作業ニ關セサル他事ヲ交談シ或ハ路人ニ聲語シ或ハ漫リニ部外ノ工場ニ入り或ハ押丁等ヲシテ囚徒ト相狃ル、ノ狀ナカラシムルヲ要ス若シ犯ス者アルハ看守長ニ具狀スヘシ

三 文字ヲ書スル能ハサル囚徒ノ爲メニ願訴ノ書面ヲ代書ス

者アルキハ其願訴ヲ代書スヘシ

八 押丁及ヒ授業手ヲシテ囚徒ト相狃ル、ノ狀ナカラシムルハ勿論若シ押丁授業手ノ之ヲ犯ストキハ看守長賞罰ノヲ記述スル主務者當直所ヘ引致スヘシ

○ 各課學務通則

第一條 書記看守長ハ共ニ其課務細則ニ從ヒ各自ノ學務ニ係ル、ノ處分案ヲ起シ典獄ノ可決ヲ經テ之ヲ施行スヘシ

第二條 典獄入直セサル時ニ際シ急キ用辨スヘキ事アレハ成規定例ニ照シテ之ヲ施行シ後チ典獄ノ檢印ヲ乞フ、ヲ得ル例規ヲキモノハ此限ニアラス

第三條 他課ニ關涉スル事件ノ處分案ヲ起シタルキハ其課ニ合議スヘシ

備人分課例

教誨師

一 改過遷善ノ道ヲ講
説シテ囚徒ヲ教誨
ス

醫師

一 囚徒ノ疾病ヲ診察
治療シ其癘篤疾若
クハ重病急症ニ至
レハ診斷書ニ處方
箋ヲ添ヘ典獄ニ致
スヘシ

二 病囚ノ氏名病性徵
候治否及ヒ處方ハ
調治簿ニ詳記スヘ
シ

三 毎朝一次各監ヲ巡
リ囚徒ノ飲食衣類
ヲ看視シ健康ニ害
アリト認ル事アル

第四條 諸文書ヲ領シタルキハ三日間ニ處分案ヲ附

スルヲ要ス若シ此限ヲ過ルコトアルキハ其事由ヲ典
獄ニ具狀シテ認可印ヲ乞フヘシ

第五條 孰レノ課ヲ問ハス掌務ノ事件ヲ結了シタル
キハ直チニ其本書ヲ庶務課ニ交付シ謄寫ヲ要スヘ
シ庶務課ハ記錄者ヲシテ謄寫セシメ謄寫了ラハ校
合檢印シテ謄本ヲ主務課ニ返附シ其受領ノ証印ヲ
取置クヘシ

第六條 主管ノ事務ニ付諸議案ヲ發スルキハ必ス庶
務課ノ稽查ヲ要スヘシ庶務課ハ其議案ヲ勘査シ意
見アレハ主務課ニ商議シ若シ意見協ハサルモノハ
付箋ヲ以テ其理由ヲ述ヘ直チニ典獄ニ致シ決判ヲ
乞フヘシ

キハ改良ノ意見ヲ
典獄ニ具狀スヘシ

四 診察手術ヲ施スル
ハ病者ニ向テ攝生
ノ方法ヲ示スヘシ

授業手
一 服役ノ囚徒ニ農業
工藝等ヲ教ヘシム

押丁
一 囚徒監房出入ノ際
其身体衣服ヲ搜檢
シ服役者ヲ督使シ
控繩戒護等ニ從事
ス

女監取締
一 女監ヲ監視シ婦女
入監ノ際ハ典獄ノ
臨監ヲ得テ其身体
衣服ヲ搜檢ス

二 飲食ヲ配與シ及ヒ

第七條 前條ノ諸議按典獄ノ可決ヲ經タルモノハ庶

務課ヨリ再ヒ主務課ニ交付スヘシ

第八條 各自ニ處分按簿ヲ製シ其結了シタル事件ノ
摘要ト年月日番號ヲ詳記シ他日ノ用ニ供スヘシ

第九條 至急決判ヲ要スヘキモノハ回議文書ノ上端
ニ紅色紙ヲ貼附シ尋常文書ト別異スヘシ

第十條 庶務課ハ諸議案ノ件名簿ニ依リ文書ノ既未
濟ヲ照査シ其主務者ニ向テ推問シ理由ノ説明ヲ求
ムルコトヲ得ヘシ

女囚ノ作業ヲ督勵ス

明治十四年三月本省
乙第拾六號達
今般第十四號第十五
號ヲ以テ司獄官吏名
稱被定候ニ付該官吏
及ヒ傭人ノ義ハ別紙
程度ニ照シ設置候義
ト心得ヘク此旨相達
候事

(別添)

司獄官吏傭人設置
程度

判任官 在監人貳百
人以下五名
ヲ置ク以上

看守	ハ百五十人 毎ニ壹名ヲ 増ス 在監人拾五 人ニ壹名ヲ 置ク
教誨師	人員俸金適 宜
醫師	人員俸金適 宜
授業手	人員俸金適 宜
押丁	在監人拾人 ニ壹名ヲ置 キ俸金ハ八 圓以下ヲ以 テ月給又ハ 日給トナス
女監取締行狀善良ニ シテ四十歳	

(參觀)本省へ伺 十四年六月廿一日
發第貳百〇貳號
本省乙第十六號ヲ以テ司獄官吏設置程度御達
相成候處當監ノ義ハ煉化工業ヲ專ラトシ其他

ハ僅々二三ニ不過故ニ外役等差出候義モ稀少
ニ候得共周圍柵矢來未々十分ナラス動モスレ
ハ囚徒逃走ノ懸念モ有之圍外へ看守數十名ヲ
配置シ警守爲致居候ニヨリ看守ハ多人數ヲ要
シ押丁ハ寡少ニシテ差支無之候間該程度人員
中當分ノ内増減致候テモ可然哉至急何分ノ御
指令被成下度此段相伺候也
御指令十四年六月廿八日
書面伺之趣聞届候事
但彼是増減ノ爲メ増費ヲ申立ル等ノ儀ハ不
相成候事

以上若クハ
司獄官吏ノ
婦女ヲ選ミ
在監人貳拾
人ニ壹名ヲ
置キ俸金ハ
拾五圓以下
ヲ以テ月給
又ハ日給ト
爲ス

第二類

官房事務

○署員宿直心得十五年十二月廿日達第四拾三號

一宿直ハ各課日勤ノ判任官一名等外雇ノ内一名宛ヲ以テ退廳時限ヨリ出勤時間迄ヲ以テ管掌ノ時間トス

但明番ノ者ハ御用都合ヲ以テ翌日休暇スルヲ得

二備月俸金拾貳圓以上ノ者ハ判任官員ノ補充トシテ宿直ヲ命ス可シ其時限中管掌ノ事務ニ付テハ凡テ判任官ノ例ニ從フ

三宿直ノ等外吏及雇ハ凡テ宿直ノ判任官若クハ其補充ノ者ノ指揮ヲ受ク可シ

十六年四月廿六日達
第五號ヲ以テ第十項
ヲ追加

四宿直ハ各順番ヲ定メ五日以前ニ職務掛ヨリ通知ス可シ

五廢休早出居殘ヲ以テ別段事務取調ヲ命シタル者ハ宿直ノ順番ヲ除ク可シ

六疾病其他ノ事故ヲ以テ當番前日迄ニ届出又ハ其認可ヲ得タルキハ順次ニ繰上ク可シ

但當日ニ至テ本文ノ如キ不得已場合ニ於テハ同僚ヲシテ宿直ヲ代勤セシムルヲ得

七疾病等ニテ引込ノ者ハ出勤後次回ノ順番ニ宿直セシム

但出勤後三日内ニ宿直ノ順回シ來ルキハ尙次回ノ順番ニ當ツヘシ

八御用出張ヲ命セラレタルキハ當日ヨリ宿直ヲ除キ

本人歸着ノ後次回ノ順番ニ當ツ可シ若シ歸着後三日内宿直ニ當ルキハ前項但書ノ例ニ倣フ

九管掌中ノ事故及來翰ノ要旨ヲ日誌ニ記載シ書類ハ翌朝庶務課ニ送付シ日誌類ハ職務掛へ交付スヘシ

但典獄宛親展書ハ直ニ送呈ス可シ

十管掌中未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ配送シ來ルキハ直ニ配達人ニ還付ス可シ若シ其郵便物ヲ受取タルキハ其納稅ハ自辨タル可シ

十一宿直時間中囚徒若シ死亡スル者アルキハ典獄ノ代理トシテ看守長ト共ニ現場ニ竝ヒ蒞シテ檢視シ其異狀ナキ者ハ成規定例ニ依テ處分スヘシ若シ處分シ難キ者ト思料スル者ハ典獄ニ陳告シ指揮ヲ受クヘシ

十二非常ノ事變ニ際シ看守長ヨリ通報アルキ又ハ直ニ知得タルキハ先ツ典獄ニ報シ尙ホ官舎ノ吏員ニ通知シ臨時之ニ應スルノ處置ヲナス可シ

十三各廳ヨリ囚徒ヲ押送シ來ルキハ成規ニ準據シ之レカ文書ヲ閱シ當サニ領收スヘキヲ看守長ニ通牒シ俱ニ檢收ノ手續ヲナスヘシ

十四宿直時間中時宜ニ由リ至急ヲ要スル事件ニ付必ス主務者ノ承領ヲ要スルキハ之カ出署ヲ求ムルヲヲ得其然ラザル者ハ第十一項ノ例ニ從フ可シ

十五出勤簿ハ出勤時間ヨリ二時間前机上ニ出シ看守授業手及押丁ノ出勤簿ハ同時ニ警守課へ送付ス可シ

十六新拜命ノ者ハ凡テ宿直順ノ結末ニ組入ル可シ若

シ三日内ニ其順直ナルキハ第七項但書ノ例ニ做フ

○署員休暇例 十五年七月卅一日達第二十五號

第一條 署員ノ休暇ハ一ケ年間三十日ヲ賜ハルヘシ

ト雖モ事務ノ都合ヲ以テ其課員三分ノ一以下ヲ以テ賜暇人員ノ程限ト爲ス但シ一年ト稱スルハ毎年一月ヨリ十二月ニ至ルヲ以テ一期限トス

第二條 甲乙ニ部署シ勤務スル看守押丁及ヒ日給雇ノ者ハ此例ヲ適用スルヲ得ス其他ノ雇人ハ凡テ此例ニ依ル

第三條 休暇ヲ乞ハントスル者ハ前日マテニ書面ヲ具シ主務課ヲ經由シテ典獄ニ致シ其認可ヲ受クルモノトス若シ已ヲ得サル事故アリテ臨時ニ其狀ヲ具シ休暇セント乞フ者アルキハ事情ヲ稽査シテ直

ニ認可スルヲアルヘシ

第四條 各自ノ便宜ニ由リ一ケ年間ノ賜休暇日數ヲ一時ニ乞ヒ又ハ分除シテ數回ニ乞フモ妨ケナシト雖モ奉職六ケ月未滿ニシテ休暇ヲ乞フヲ得ス滿六ケ月以上勤續ノ者ハ十五日以内ノ休暇ヲ乞フヲ得

第五條 休暇中旅行スルモ妨ケナシト雖モ一日道程以外ノ地ニ旅行スル者ハ必ス其出發ト歸著トヲ届クヘシ若シ途中事故アリテ期日ニ後ル、カ如キ場合ニ於テハ該地戸長ノ証書ヲ要スル等凡テ一般ノ成規ニ從フヘシ

第六條 時宜ニ由リ乞フ所ノ賜休暇日數ヲ減縮シ又ハ既ニ認可シタル者ト雖モ臨時休暇ヲ中止シ又ハ

一時出署ヲ命スルヲアルヘシ

第七條 休暇中若シ監署ニ係ル事變ヲ知り得タル者ハ直ニ出署シ之ニ應スル心掛アルヲ要ス

第八條 他ヨリ轉任シタル者ハ前奉職廳ニ於テ拜命シタル日ヨリ起算シ當監ニ勤續ノ者ト同様前數條ノ例ニ從ヒ休暇ヲ稟請スルヲ得

休暇稟請書式 (用紙美濃紙)

休暇稟請

私儀

明治何年何月以來何年以上或ハ六ケ月以上勤續ニ付一ケ年間三十日賜休暇ノ内來ル何月何日ヨリ何月何日マテ都合幾日間休暇ノ義御認可相成度候也

明治何年何月何日

官姓名

印

典獄某殿

十六年六月廿三日達
第拾號ヲ以テ第八條
ヲ追加

〔參觀〕
 明治十五年七月十日
 本省太職第三百四十
 貳號達
 來ル七月十一日ヨリ
 九月十日マテ諸官員
 休暇ヲ賜候旨御達相
 成候ニ付右日限中各
 員三十日ツ、御用支
 無之様休暇可致尤モ
 休暇中旅行ノ義モ被
 差許候條其行先可届
 出此旨相達候事

〔參觀〕本省へ伺十五年七月十二日
發第四百拾貳號
 本月十日御達相成候諸官員日限中賜休暇ノ義
 當監ノ義ハ各官衙ト異リ囚人取締上等ニ付日
 時ヲ限リ候テハ自然御用差支ヲ生シ可申候間
 自今一ケ年間ニ御用都合ヲ以三十日宛賜暇相
 成候様仕度此段相伺候也
 御指令 十五年七月廿一日
 書面之趣聞届候事

○履歷書式
 履歷書用希美濃野紙

何府縣華士族
平民 舊何藩
 氏名
通稱又ハ幼名
年齢

明治何年何月何日
 一何々申付候事
 何省或ハ局
府縣

但月給何圓給與候事

同何年何月何日
 一任何等屬
 何省府縣

明治何年何月何日
 一廢官又ハ官等改正
 但朱書スヘシ
 賞罰等ハ其全文ヲ記載スヘシ

○辭令書式

用紙奉書四ツ切

氏名
〔等外〕看守
〔雇〕押丁 申付候事

官氏名
 何課勤務申付候事

但(月給)何圓給與候
事
年月日
東京集治監

年月日
東京集治監

官氏名
(依願(等外)看守)差免候
事
年月日
東京集治監

官氏名
自今(月俸何圓)日給
何十何錢給與候事
年月日
東京集治監

官氏名
早出居殘事務勉勵候
ニ付爲手當金何圓給

官氏名
御用有之(何府縣或何

與候事
年月日
東京集治監

國江出張申付候事
年月日
東京集治監

○除服出仕申付ハ美濃罫紙ヲ用ユ

○諸願伺届

〔十四年十月一日〕各課掛
〔達第五拾五號〕

署員諸願伺届等ハ必ス其課長ノ捺印ヲ要シ可差出
義ト心得ベシ此旨相達候事

〔十三年十月十八日庶
務課ヨリ各課へ通知〕

諸願伺届ノ義ハ豫テ長官宛ニ可認ノ成規ニ候處往
々成規ニ抵觸致候モノ不少ニ付自今凡テ獄司宛ニ
可認旨被相達候條此旨及御通知候也

○勤怠簿

〔十二年十二月十八〕署員一般へ
日達第四十五號

勤怠表ハ每朝出勤直チニ捺印可致筈ノ處間々怠慢
ニ流レ候輩モ有之調方差支ヲ釀シ候ニ付自今必ス
午前第十一時迄ニ調印可致若シ右刻限ヲ經過候者
ハ欠勤ト見做候條此旨爲心得相達候事
但別段理由有之者ハ其旨庶務課へ可申出候事

○新年式及ヒ歳末祝詞

〔十六年十二月十五〕
日官房達第八號

本年署中御用仕舞及十七年新年式別紙之通相定候
條此旨相達候事

〔別番〕

御用仕舞

二十八日午前第十一時ヨリ三時迄ニ御用都合ヲ以

テ一課毎ニ課員一同歳末祝詞可申述事

新年式

二日 午前第九時署員一同禮服着用參賀之事

四日 午前第九時政始

五日 新年宴會休暇之事

但右歳末年始ノ儀式ニ付判任官ノ本省ニ對スル
手續ハ從前ノ通り可相心得候事

用紙大美濃横一ツ折

何課

課長官氏名

官氏名

一日 午前十時各局課監

判任官並

准判任御

〔參觀〕

明治十六年十二月十

九日本省號外達各局

掛會監へ

來ル明治十七年當省

新年式別紙ノ通相達

候條此段相達候事

〔別番〕

右〔歳末〕〔新年〕祝詞言上

年號月日

○原籍票

拜命直ニ本人ヲシテ記載セシム

原籍	何(縣)何國何郡何(町)何(村)何(地)
族籍	居住或ハ同居 華士族或ハ平民
姓名	姓 名 印
誕生年月	何年何月何日生
徵喚當日	明治何年何月何日何々拜命
現時宿所	現時ノ宿所ヲ詳記ス若シ原籍ナレハ原籍トノミ記載スヘシ

職員分課表

上局典獄

計本務壹人

用掛參賀
但在京府
縣判任官
及准判任
御用掛ノ
輩同上

四日
午前九時政始

五日
午前十一時新年宴

會

當省及府縣
在京奏任官
省中ニ於テ
酒饌ヲ賜フ

十日

午前九時在京判任
ノ神官及神
道教導職七
級以上每級

總代一人宛
參賀

午前十一時在京各
宗敎道職七
級以下每級
總代一人宛
參賀

庶務課員

書 記
准 判 任
等 外
附 屬 看 守
備

計本務拾六人

工業課員

書 記
准 等 外
附 屬 看 守
備
日 給 雇
授 業 手
書 記
准 判 任
等 外

計本務四十五人

會計課員

書 記
准 判 任
等 外
准 等 外

計本務貳拾三人

官房事務 原籍票職員分課表

病 院	醫師	三	計本務九人
	醫師	六	
職務掛員	一	計本務壹人	
	一		
警守課員	押	四八	計本務百五拾人
	看	一	
	看	九八	
	看	三	
使	丁	七	計本務百五拾人
	給	三	
	日	三三	
給	仕	七	
日	給	四七	
履	履	七	

總計 本務 二百四十五人
兼務 拾五人
外ニ教誨師貳人○兼務ハ朱書ス○明治十七年二月十八日ノ調査

明治十五年七月第四

十四號公達

行政官吏服務紀律左ノ通相定候條此旨相達候事

行政官吏服務紀律

第一條 凡ソ官吏ハ

法律及職制章程ニ

從ヒ各其職ヲ盡ス

ヘシ

第二條 凡ソ官吏ハ

太政大臣又ハ本屬

長官ヨリ下ス所ノ

達示ヲ遵守スヘシ

第三條 所屬官ハ事

ヲ本屬長官ニ受ケ

其命ニ順ヒ職務ヲ

執行スヘシ

第四條 凡ソ官吏ハ

職務ノ内外ヲ論ビ

○訓詞

十五年十月達各課長
第三十七號

司獄官吏ハ謹厚ニシテ行實アルハ勿論其職務ニ關スル法律規則等ニ於テハ兼テ充分研究能其精神ノアル處ヲ通曉可致義緊要ニ有之署員中各自其心掛可有之候へ共昨十四年三月内務省達乙第十五號及本年太政官第四十四號公布ノ趣モ有之ニ付爲念別紙内訓候條各課長ヨリ課中へ無洩通諭可致此旨諭達候事

〔別紙〕

訓詞

凡ソ獄吏ハ謹厚ニシテ行檢アリ機敏ニシテ膽畧アルヲ要ス蓋シ謹厚ニシテ行檢アレハ以テ囚徒ノ標

ス廉耻ヲ勵マス
ヲ務ムヘシ

第五條 官吏官ノ機

密ヲ漏洩スルコト
ヲ得ズ其職ヲ退ク
ノ後ニ於テモ亦同
様タルヘシ

第六條 官吏本屬長

官ノ許可ヲ得ルニ
非サレハ直接ト間
接トヲ論セス本職
ノ外ニ給料ヲ得テ
他ノ事務ヲ行フコ
トヲ得ズ

第七條 官吏本屬長

官ノ許可ヲ得ルニ
非サレハ其職務ニ
關シ他人ノ贈遺ヲ
受ルコトヲ得ズ

第八條 官吏他人ノ

請托ヲ受ケ私ニ狗
ヒ公ヲ亂ルコトヲ
得ズ

第九條 官吏本屬長

官ノ許可ナクシテ
擅ニ職役ヲ離ル、
コトヲ得ズ及事ニ
托シテ疾ヲ引キ職
事ヲ曠廢スルコト
ヲ得ズ

第十條 官吏前ノ各

條ニ違ヒ顯狀アル
者ハ本屬長官其輕
重ニ從ヒ旨ヲ諭シ
職ヲ辭セシメ又ハ
懲戒例ニ依リ處分
スヘシ其功過相補
フヲ以テ處分ヲ宥
恕スヘシト認ムル
者ハ本屬長官其情

準タル可ク機敏ニシテ膽畧アレハ以テ兇暴ヲ制禦
スヘキナリ是一般獄吏ノ性質ニシテ今爰ニ其職ヲ
奉スルノ各員心口常ニ此要ヲ存シ俱ニ獄務ヲ精究
シ又間然スヘキ無キニ至ランコトヲ期ス

凡ソ官吏ハ恒ニ言行ヲ慎ミ法律規則ヲ謹守シ其意
義ヲ通曉明晰シ毫モ人民ノ侮慢ヲ來スカ如キ舉止
ナキヲ勤ムルハ言ヲ俟タサレモ就中獄吏ノ如キハ
切實公正ナラサルヘカラス法律規則ハ通曉セサル
可カラス或ハ從來ノ慣習トシテ人ノ獄吏ヲ評スル
ヤ尤モ輕易ノ職ト思惟シ甚シキニ至テハ卑職視ス
ルカ如キ憾アラシムルト雖モ文物日進ノ今日ニ至
リテハ決テ然ラス實ニ其任重ク道遠シト云フヘシ
其謂ヒハ國家ノ病毒トスヘキ罪辟ニ觸レ傑驚不遜

ノ徒ヲ効治シ改過遷善ノ道ニ化セシムルノ職ニシ
テ苟モ其難行ヲ輕ロシ法律規則ヲ重シセス其意
義ヲ會得セサレハ終ニ識ラス知ラス法律ニ悖戾シ
職ヲ瀆スニ至ラン歟其法ニ悖戾スルノ身ヲ以テ彼
ノ千百ノ匪徒ヲ陶冶セントスルモ到底得ヘカラサ
ル也思ハスンハアル可ラス故ニ今其獄吏タル者直
接ニ研究ヲ要スヘキ緊急ノ法典ハ監獄則ナリ其他
獄務ニ關スル一切ノ法規刑法治罪法ノ如キ日夜展
讀義理ヲ明晰シテ以テ謹行ヲ懈ラス凜乎トシテ又
犯ス可ラサル威望ヲ養成スルヲ肝要トス
凡ソ獄吏ハ德義ト規律トヲ並行シ其權衡宜キヲ得
サレハ彼ノ兇暴ノ徒ヲ導化スルノ目的ヲ達スルコ
ト難カルヘシ如何トナレハ法律ニ偏スルキハ外部シ

狀ヲ具シ太政大臣ニ上申シテ量定テ請フヘシ

第十一條 長官ハ各其所屬官ヲ檢察スルノ務ニ任スヘシ

第十二條 臨時巡察使ヲ派出シテ官吏ノ治績及功過ヲ檢察シ狀ヲ具シテ直ニ太政大臣ニ上申セシムヘシ

十五年八月本省達別紙ノ通各局ヘ相達候條此旨相達候事 (別紙)

制裁ヲ專トシ動モスレハ嚴酷ト輕薄ニ失シ德義ニ偏スルキハ内部ノ情恕ヲ專トシ寬宥恩遇ニ過クルノ恐レアリ我輩俱ニ服務ノ標的トナス處ノ獄則ハ能ク此兩義ヲ具備包括シタルノ法典ナリ然リト雖モ人其字句ノ誦讀シ易キト章款ノ簡短ナルニ慣レ或ハ雲烟過眼ニ付シ其意義ヲ翫味セサルニ至ラン之レ其字句ノ淺薄ナルニ非スシテ之ヲ翫味スルノ智能ニ乏シキカ故ナリ苟モ獄吏タル者此法典ヲ輕忽ニ附スルキハ終ニ其職ニ堪ヘサルノ謗リヲ來サシ深ク省ミサル可ラス

前條ニ叙述シタル大要ハ各員ノ熟知スル所ニシテ今更言ヲ要セスト雖モ尙ホ將來署員ノ職務上一層ノ注意ヲ呼ビ俱ニ鞠躬其職ニ斃レント切望シ敢

各局課掛

今般官吏服務紀律御達相成候就テハ各局長於テ尙一層注意ヲ加ヘ局中取締尙嚴肅相立候様可致依テ別紙内達書添此旨相達候事

(別紙)

大政官達 十五年七月

今般行政官吏服務紀律施行候ニ付テハ各長官ニ於テ厚ク注意ヲ加ヘ將來嚴肅ニ取締相立候様各所屬官ヘモ告示ニ可及尤モ本紀律施行以前ノ事件ハ其自新ニ任セ更ニ檢舉ニ及ハス此旨可相心得事

テ訓示候也

右訓示候ニ付テハ左ノ通り心得ヘシ此旨諭告候事

一 監獄則ハ各自ニ携有シ出署ノ節ハ必ス卓上ニ備ヘ常ニ之ニ依テ事ヲ處辨スルハ勿論ノ義ニハ候ヘ共若シ新任ノ者歟又ハ然ラサルモ未タ所持セサル者ニハ貸與スヘキニ付兼テ庶務課ニ備付有之候條望ミシ者ハ同課ニ申出テ貸與ヲ乞フヘシ

一 諸規則及ヒ當監内規ニ關シ議疑ヲ生スル條項ハ庶務課ニ商議シ説明ヲ要シ彼此異同無之様可致事

一 公務ノ餘暇監獄則其他諸規則等會讀又ハ質義等ノ爲メ署中ニ於テ場所ヲ定メ集合スルハ妨ケナシ

但必ス退廳時限後タルヘシ

〔參觀〕太政官内達十五年七月廿七日

今般第四十四號ヲ以テ行政官吏服務紀律相定候ニ付テハ心得ノ爲メ別帛説明書下付候條其旨趣貫徹候様注意可致此旨内達候事

官吏服務紀律説明

刑法ノ外ニ紀律アルハ風紀ヲ肅シ節制ヲ嚴ニスル所以ナリ行政官吏ハ政府ノ機關ニシテ治化ノ本源タリ宜ク特別ノ紀律アリテ以テ精神ヲ維持シ義務ヲ嚴明ニセサルヘカラス紀律ノ重キ者ハ一ニ曰法ヲ守ル二ニ曰順從三ニ曰廉耻四ニ曰慎密五ニ曰清白六ニ曰公正七ニ曰勤勉

第一條 凡ソ大小ノ官吏奉ジテ以テ準繩尺度

トナス所ノ者第一法律第二職制章程ノミ若シ法律上職制章程トキ以テ一定ノ準ト爲サレハ官事百端其局ニ當ル者各意ヲ以テ左右スルトキハ將ニ其弊ニ堪ヘサラントス故ニ其職ヲ行フニ於テ法律ニ違ヒ若クハ職制章程ニ違ヒ威權ヲ弄シ弊端ヲ作シ又ハ權限ヲ越エ職事ヲ愆マル者重キ者ハ刑法ニ條アリ輕キ者ハ懲戒加フルユトアリ而シテ其人ニ損害ヲ加フルニ至テハ更ニ賠償ノ責ヲ免レサラントス
第二條ハ現行ノ達内諭内達及將來ニ行フ所ノ達示ヲ兼テ稱スルナリ現行ノ達ハ即チ八年四月二十三日官吏商業ヲ營ムコトヲ禁スルノ達十

四年五月六日官吏商業株主タルコトヲ禁スル
 之達ノ類是ナリ
 第三條ハ順從ヲ示スナリ本屬長官ノ所屬官ニ
 於ケルハ手ノ指ヲ使フカ如ク遞次ニ連串シテ
 精神始メテ通ス故ニ所屬官タル者其職ヲ行ニ
 當テ長官ノ命ニ順ヒ專其指示スル所ニ依ルヘ
 シ蓋シ人心同カラズ意見各異ナリ若シ人々各
 其是トスル所ヲ行ハシメハ機關澁滯シテ事務
 壅塞シ空議日ヲ曠シクシテ終ニ成功ナキニ歸
 セントス若シ所屬官長官ノ處分又ハ指令ヲ以
 テ不法非理ナリト思惟スルトキハ敬禮ヲ失フ
 コト無ク及遲滯シテ事ニ害アルニ至ルコト無
 ク意見ヲ俱陳シテ長官ノ採用ヲ仰キ諄々忠告

シテ諱マサルヘシ若シ長官ニ於テ仍ホ前令ヲ
 執リ之ヲ改メサルトキハ屬官タル者己ヲ舍テ
 命ニ順フノ外唯々職ヲ辭シ官ヲ去ルノ一途ア
 ルヲミ但シ輔官ノ輔弼ノ責アル議事官ノ議事
 ノ任アルニ至テハ一例ヲ以テ概スルコトヲ得
 サルナリ
 第四條 法ノ及ハサル所律ノ間ハサル所唯廉
 恥アリテ以テ之カ防ヲ爲ス官吏ノ身ヲ處スル
 職務ノ内外ヲ論セス人民ノ具ニ瞻ル所ナリ苟
 モ廉耻ヲ失ヒ貪汚ノ行アルニ至テハ官吏ノ体
 面何ニ由テ之ヲ保タン而シテ政府ノ威信將ニ
 是ニ因テ地ヲ拂フニ至ラントス
 第五條ハ慎密ヲ示スナリ機密ニ二様アリ其一

ハ事固ヨリ機密ニ屬スル者其二ハ長官ヨリ特ニ機密ヲ約束スル者是ナリ機密ヲ漏洩スル者ハ懲戒重キヲ加フルハ行政ノ已ムコトヲ得ルニ出ルナリ其職ヲ退クノ後ニ於テモ亦同キ者ハ道義ノ宜シク然ルヘキナリ

第六條第七條ハ清白ヲ望ムナリ官吏他ノ事務ヲ行フモ本職ヲ缺カサルトキハ事ニ害ナキカ如シト雖モ志嚮一ナラスシテ職務專ナラサレハ以テ官ニ居ルヘカラサルナリ但シ給料ナキノ事務ハ之ヲ行フコトヲ妨ケス長官ノ許可ヲ得ルトキハ給料ヲ得テ事務ヲ行フモ亦妨ケス猶狹隘ニ失ハサルナリ

職務ニ關シ佗人ニ勞効アリ從テ禮儀ヲ以テ贈

遺報酬ス然ルニ猶ホ長官ノ許可ヲ要シ始メテ收受スルコトヲ許ス者ハ官吏私ヲ以テ物ヲ受クルハ清廉ヲ傷ルニ嫌アレハナリ

第八條 公正ヲ重スルナリ人ヲ用ヒ事ヲ處スルノ際請謁ヲ納レ貨賄ニ瀆ルハトキハ情實ノ弊終ニ公義ヲ亂ルニ至ル是レ尤モ官吏ノ意ヲ致スヘキ所ナリ

第九條ハ勤務ヲ重スルナリ倨傲怠慢ハ官ニ居ルノ道ニ非ス事意ニ協ハサルコトアリ誠ヲ竭シ忠言スルコト可ナリ若シ長官ノ許可ナクシテ擅ニ其任地ヲ去リ其職務ヲ離レ或ハ事ニ托シ疾ヲ引キ以テ自ラ高シトナスカ如キニ至テハ義ヲ棄テ務ヲ敗ル公ニ於テ政機ヲ愆マリ私

ニ於テ忠亮ニ乖ク是レ懲戒ノ宜シク加フヘキ所ナリ或ハ僚友朋比シテ故意ニ連串シ相率井テ引退スルカ如キニ至テハ情罪尤重シトス第十條ハ處分ヲ示スナリ凡ソ紀律ニ違フヲ以テ職ヲ辭セシメ又ハ懲戒スル者ハ必其顯狀ニ據ルヘシ曖昧ノ隱事及風聞ヲ以テ處分スルコトヲ得ス其過失アリト雖モ素ヨリ功勞アリ以テ相補フヘク從テ處分ヲ宥スヘキ者ハ本屬長官其情狀ヲ酌ミ一定ノ尺度ニ拘泥スヘカラス是レ其ノ刑法ト同カラサル所以ナリ但宜シク狀ヲ具ヘテ太政大臣ノ量定ヲ請フヘクシテ本屬長官意ニ任シ上下スルコトヲ得サルハ其私ニ庇蔭スルコトヲ防クナリ其輕重ニ從ヒ小

過ヲ略シ才能ヲ使フ等機宜活用スルハ宜シク長官ノ意見ニ任スヘキナリ
第十一條 長官ノ所屬官ニ於ケルハ固ヨリ監督ノ責アリ從テ檢察ノ務ニ任スヘシ但タ長官ハ大明ヲ欲シテ細察ヲ尙ハス是レ其ノ意ヲ加ヘテ操縱スヘキナリ
第十二條 官吏ハ固ヨリ其本屬長官監督ノ下ニ屬スト雖モ其治績ヲ考ヘ其功過ヲ計ルニ於テ勢極メテ難キ者アリ是レ巡察使ノ臨時ニ派遣スルコト已ムヲ得サル所以ナリ
大寶令太政官部ニ巡察使掌巡察諸國不常置應須巡察權於内外官取清灼然者充巡察事條及使人數臨時量定

〔參觀〕監獄則拔萃

監獄則第十條 新ニ

入監スル者アルハ

ハ典獄先ツ拘引狀

拘留狀収監狀又ハ

處刑宣告書等ノ文

書ヲ査閲シテ之ヲ

領シ其領収ノ証ヲ

引致シ來タル者ニ

交付ス其文書ナシ

シテ引致セラレタ

ル者ヲ入監スルヲ

得ス

未決者ノ中共犯人

アルトキハ其監房

ヲ別異シ談話通聲

ヲ禁シ法廷ニ引致

ノ時モ同往セシム

ルヲ得ス

已決囚ハ第十六條

第三類

庶務

○新ニ入監ノ囚徒取扱順序十六年十月廿四日達第三十號

第一條 新ニ入監スヘキ者ヲ領収スルノ法ハ監獄則

第十條以下ノ規則ニ從ヒ處辨スヘシト雖モ其取扱

順序ハ左ノ數條ノ細則ニ從フモノトス

第二條 受付掛ハ各官衙ヨリ囚徒ヲ押送シ來ルキハ

先ツ其押送官ニ面接シ書類ヲ受取り封緘庶務課ニ

交付シ其囚員及ヒ氏名刑名等ヲ書記シ警守課ニ通

報シ仍ホ其押送官ニ告ケ囚員ヲ中門内ニ入レシメ

看守長ニ渡サシムヘシ

第三條 庶務課ハ例規ニ從ヒ押送書類ヲ領シ開緘ノ

上件名簿ニ記入シ番號ヲ付シテ典獄ニ致シ檢印ヲ

ニ記載シタル差別
ニ從ヒ其監房ヲ別
異ス

第十一條 入監ノ婦
女乳兒^{三歳}ヲ携帶
セント請フ者アル
時ハ之ヲ許ス

第十二條 新ニ入監
スル者アルトキハ
名籍ノ様本ニ照シ
其要項ヲ詳録シ一
小房内ニ於テ通身
ヲ搜檢シ利器其他
ノ物件ヲ夾帶スル
ヲ拒クヘシ懲治人
ノ監舍ニ入ルトキ
モ亦同シ

請フヘシ

第四條 典獄書類ノ檢閲ヲ了レハ庶務課ニ下付シ其
囚徒ヲ入監セシムヘキ手續ヲ命スヘシ庶務課ハ之
ヲ領シ其行狀録及ヒ人名録ニ刑名番號ヲ記入シ速
ニ受付掛リヲシテ警守課ニ交付セシメ尙ホ携有品
目錄ハ其掌務者ニ交付シ現品金員ヲ檢収スルノ手
續ヲナサシムヘシ

第五條 警守課ハ受付掛ヨリ領シタル書類ニ徵シ押
送官ト立會其囚員ヲ受取り速ニ戒具ヲ解キタル后
テ囚徒ヲ調所ニ入レ庶務課ニ通報スヘシ庶務課ハ
警守課ノ報知ヲ得テ書記一名課員ト俱ニ調所ニ出
席シ同時ニ看守長一名看守一名臨監シ押丁ヲシテ
規則ニ從ヒ先ツ囚徒ノ通身ヲ搜檢シ利器其他ノ物

件ヲ夾帶セサル様嚴查シ獄衣ヲ着更セシメタル後
テ各自ニ獄衣ノ外襟ニ縫着スヘキ番號布ヲ下付ス
ヘシ

第六條 書記ハ前條ノ手續ヲ了リタルキハ名籍ニ徵
シテ其要領ヲ詳録シ彼是異同ヲキヲ照查シ典獄ニ
申告シ其囚徒ニ諭達アラソフヲ求ムヘシ

但典獄諭達ノキハ書記看守長看守俱ニ陪席スヘ
シ
第七條 典獄ノ諭達了リタルキ看守長ハ工業課書記
ト俱ニ其囚徒ニ對シ工藝ノ有無ヲ訊問シ技能ニ從
ヒ其課役ノ適否ヲ勸查シタル後テ監房ヲ指命スヘ
シ

第八條 庶務課書記ハ其送付書類ニ照シ囚徒ノ携有

品ヲ檢取シ例規ニ從ヒ凡テノ物件ヲ帳簿ニ登錄シ典獄ノ檢印ヲ受ケ領置ノ處分ヲ爲スヘシ

第九條 庶務課ハ入監人アルキハ速ニ人名及ヒ刑名ヲ記シタル帳簿ヲ作り署中各課ニ通報ス可シ會計課ハ入監人ノ通知アリタルキハ速ニ食糧及ヒ監内常置器具ノ調度ヲ爲シ警守課ニ報告シ凡テ之カ配與ヲ求ムヘシ

第十條 押送シ來ル囚徒ニ關スル書類典獄檢閱ノ上當ニ入監スヘキ者ト決シタルキハ庶務課ハ速ニ領收証案ヲ起草シ典獄ノ可決ヲ經テ其引致者ニ領收証ヲ渡スノ手續ヲ爲スヘシ

〔參觀〕明治十五年二月一日第拾號公達

明治六年十一月第三百九拾壹號并同十年七月第四拾九號ヲ以テ囚人護送規則及ヒ遞傳方相達置候處今般更ニ別冊ノ通囚人護送遞傳方改正シ本年七月一日ヨリ施行候條從前達中矛盾ノ廉ハ同日限り廢止ス此旨相達候事

囚人護送手續

第一條 甲廳ヨリ乙廳又ハ集治監ヘ送移スル囚人ハ囚籍及ヒ處刑宣告書所持ノ物品ヲ併セ沿道警察本分署ニ於テ遞傳護送スヘシ但一府縣管內本支監獄ノ間ニ護送スル囚人モ其距離拾里以外ニ至ルモノハ本文ニ準スルヲ得

第二條 新タニ就捕セシ犯罪人及ヒ諸令狀ニ

〔參看〕十四年三月第拾七號公布
集治監ニ入ルヘキ囚徒并ニ其費用ノ區分當分ノ内左ノ通相定メ本年七月ヨリ施行候條此旨布告候事
第一條 集治監ニ入ルヘキ囚徒ハ刑期終身ノ者及ヒ國事犯刑期五年以上ノモノトス（府縣獄ニ拘留中ノ費用并ニ集治監ニ押送ノ費用トモ）其

費ハ國庫ヨリ支給スヘシ

第二條 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ其刑ヲ宣告セシ地方ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

十四年七月乙第三十四號內務大藏兩卿達本年第拾七號公布ヲ以テ已決囚ニ係ル經費區分等被定候ニ付テハ實地取計方左ノ通可心得此旨相達候事
一豫算ヲ以テ受入タル監獄費中國庫金

據リ引致スル刑事被告人又ハ脫走ノ軍人軍屬ノ遞傳護送ヲ要スル者モ前條ノ手續ニ準スヘシ

但入監後糾問等ノ爲メ所在ノ法衛ニ往復スルハ本條ノ限りニアラス

第三條 第一條第二條ノ護送ニ付スル囚人ノ員數及ヒ發出日時ハ其當該官吏ヨリ前以テ沿道警察本分署ヘ遞報スヘシ

第四條 護送囚人ノ數ハ一行拾名以下トス護送警察吏及ヒ繩取ノ人員ハ適宜タルヘシ但便利海路ニヨルキハ適宜囚人ヲ增加スルヲ得

第五條 遞傳護送ハ日出ヨリ日没マテヲ限り

ト地方税金トハ混一シテ諸費(懲役人井ニ看守俸給押丁女監取締教諭醫師授業手等ノ俸給及ヒ看守押丁膳料被服費)ヲ仕賄置每一ヶ月ニ囚員ノ延數ニ照シ平均シテ一囚若干ノ費金タルヲ算出シ而シテ刑期終身ノ者ト國事犯五年以上ノ者ノ延人員ニ乘シタル金額ヲ以テ國庫費ノ支出ニ可取計事
但臨時加給療養費埋葬費移轉費ノ如キ總囚ニ關ラサル費項ハ其囚員限リ平均ヲ以テ算出スヘシ

トス

第六條 警察本分署ニ於テハ護送囚人ノ郷貫氏名刑名又ハ犯罪見込ミ書ノ要領及ヒ着發日時ヲ記載シ置クヘシ

第七條 護送ノ囚人ハ沿道警察本分署ニ宿セシムヘシ若シ支障アルキハ該地戸長ニ照會シ宿所ヲ定メ適宜取締ヲナスヘシ

第八條 護送途中囚人發病スルキハ沿道警察本分署ニ付シ治療スヘシ若シ死去スルキハ該地戸長ニ埋葬ヲ囑シ(引取人アル者)醫師ニ死去證書ヲ作ラシメ戸長及ヒ護送警察吏連印シ書類物品ヲ併セ送達スヘキ衙署ニ遞付シ仍ホ發出衙署ニ報告スヘシ

一府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ經費モ前項ノ例ニ依リ地方稅支出方可取計事

十四年九月本省乙第四拾壹號達
本年第拾七號布告ニ係ル費用ハ當省ニ於テ管理候條該布告第一條國庫下附金ハ當省ヨリ可下渡候ニ付以後豫算帳及ヒ決算帳等渾テ當省ヘ可差出第二條地方稅受拂方ハ集治監ニ於テ直ニ爲取扱候條此旨相

第九條 護送途中囚人逃亡スルキハ先ツ就捕方ヲ最寄警察本分署ニ報告シ仍ホ發出衙署及ヒ送達スヘキ衙署ヘ報告スヘシ

但第八條及ヒ本文ノ手續ヲ爲スタメ他囚護送ヲ遲緩スヘカラス若シ速ニ手續ヲ了シ難キ場合ハ最寄警察本分署ノ助力ヲ請フヲ得

第十條 遞傳護送スル警察官吏ノ旅費ハ都テ沿道地方ノ警察費ヲ以テ支辨スヘシ

但繩取ノ雇給ハ第十一條第十二條ノ區別ニ依リ囚人ニ屬スル費用中ニテ支辨スヘシ

第十一條 第一條ニ掲クル囚徒ニ屬スル護送

達候事

中ノ費用ハ明治十四年第十七號布告ニ依リ區分シ集治監ニ送ルキハ沿道府縣ノ仕佛ニ立テ其他ハ出發府縣ノ監獄費ヨリ支拂フヘシ

第十二條 第二條ニ掲クル各犯人ニ屬スル護送中ノ費用ハ沿道地方警察費ヲ以テ支辨スヘシ

第十三條 護送囚人死没シ引取人ナキモ其所持金錢物品埋葬費ノ足ルモノアルモノ及ヒ陸軍隊付下士卒海軍下士卒ノ埋葬費ハ第十二條支辨ノ限ニアラス尤モ其費額ハ都テ拾圓以內タルヘシ

但下士卒ノ分ハ追テ陸軍省海軍省ヨリ各

自不拂戻スヘシ
 第十四條 遞傳ニ係ル囚人犯罪人ノ賄費額ハ
 警察本分署ニ於テハ都テ拘留人ノ例ニ依ル
 他ニ宿泊セシムルハ一宿二賄臥具點
 燈手數料ヲ合セテ金廿五錢以下一晝食金七
 錢以下藥價診察料等ハ實費支辨スヘシ

〔參看〕囚徒護送費用ノ義ニ付當監典獄ヨリ監獄局長

照會 十六年十月廿九日發ス

本年八月本省乾監甲第二六四號御達ニ依リ懲
 役十年以下ノ囚人警察遞傳ヲ以テ原縣へ還付
 候ニ付テハ右沿道警察署ヨリ護送途中ノ費用
 ナ當監ニ對シ請求致シ來リ候縣モ有之候得共

右ハ元來府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ヲ一時當監ニ
 管束スルカ如キ素ヨリ例外ト云フヘクシテ可
 ナラシ歟故ニ本令達ノアル所以ナラシ然レハ
 其正當ニ管束スヘキ府縣獄へ還付相成タル囚
 徒護送費用支辨方ハ明治十五年二月公達囚人
 護送規則第十一條本行明文ニ從ヒ支辨可致ハ
 論ヲ俟サルモ其末項ニ其他ハ發出府縣ノ監獄
 費ヨリ仕拂フヘク明文アリト雖モ素ヨリ當監
 ハ府縣獄ニ非サレハ警察遞傳護送費用ノ請求
 ニ應セサル義ト考量候得共爲念御意見承知置
 度此段及御照會候也

○同年十一月回答來ル

客月廿七日附テ以テ囚徒護送ノ費用御照會

趣了承右ハ御意見ノ通ニテ可然ト存候此段及御回答候也

監獄則拔萃

監獄則第八十七條

在監人ニ接見セン
ト請フ者アルトキ
ハ典獄先ツ之ニ面
接シテ其氏名族籍
營業等ヲ訊ヒ其緣
由ヲ詳悉シ已ムヲ
得サルノ事狀アリ
テ形跡ノ疑フヘキ
コトナキハ之ヲ
許シ看守長看守並
蒞テ面會セシム但

○接見取扱手續日達第三十二號
十六年十月廿四

第一條 外間人ヨリ在監人ニ對シ接見センヲ乞フ者アルキハ監獄則第八十七條ノ明文ニ從ヒ之ヲ許可スト雖モ實際取扱フ處ノ細則ヲ規定スル左ノ通
第二條 在監人ニ接見ヲ乞フ者アレハ典獄先ツ書記ヲ以テ臨時代理ヲ命シ面接ヲ乞フ外間人ノ郷貫氏名族籍營業ヲ訊ヒ然ル後ヲ其在監人ト如何ナル緣

密室ニ在ル者ハ接見ヲ許サス

面會ノ時間ハ三十分時ヲ過ルヲ得ス
若シ面會ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲナシタルトキハ直チニ之ヲ停止ス

第八十八條 死刑ノ

執行及ヒ徒刑流刑禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒ヲ集治監ニ押送ノ以前親屬故舊其囚徒ニ面會セント請フトキハ前條第一項ノ例ニ依テ之ヲ許ス但面會ノ時間ハ五十分時ヲ過ルヲ得ス

〔參看〕十六年七月司法省達丙第四號

由等親ナルヤ又ハ婚屬ナルヤヲ問ヒ名籍上ニ照査

シテ在監人ノ面貌等ヲ知得タル者ナルヤ否ヲ勘査シ其面會ヲ要スル旨主ヲ詳悉シ毫モ疑フヘキ形跡ナキモノト思料スルキハ其接見ヲ乞フ旨主ヲ書面ニ認メサセ調印シタル願書ヲ領シ書記受領ノ捺印ヲ調シ典獄ノ允許ヲ得ルノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 典獄認許シタル願書ヲ看守長ニ下付シ其面

接ノ施行ヲ命ス看守長ハ在監人ニ命シ接見ヲ請フ者アルヲ許可セラレタル旨ヲ告ケ接見室ニ引テ式ノ如ク格子内ニ立シメ外間人ヲ格子外ノ柵欄ニ倚ラシメ看守長看守ト俱ニ接見室ニ竝蒞テ願旨ヲ面語セシム但面語ノ時間ハ三十分時ヲ過ルヲ許サス
○裁判所ノ囑托ニ依リ在監人ニ送達スヘキ書類

監倉若シハ獄舎ニ在
ル被告人へ送達スヘ
キ渾テノ書類ハ裁判
所ヨリ監獄署へ送達
ノ手續ヲ囑託シ該署
ニ於テハ規則ニ從ヒ
本人ニ送達シ合狀ハ
其正本其他ハ送達書
ノ一本ヲ裁判所へ返
還スヘキ様取計ベシ
此旨相達候事
但從前ノ指令内訓
本文ニ牴觸スル條
件ハ渾テ取消候事

取扱手續 十六年十月廿四日達第三十一號

第一條 已決囚ニ送達スヘキ渾テノ書類ヲ裁判所ヨ
リ當監ニ對シ本人ニ送達ノ手續ヲ囑託アリタルキ
ハ典獄先ツ書類ヲ檢閲シ書記ヲシテ其書類ノ送達
ヲ受クヘキ本人當ニ在監人ナルヤ否ヤヲ名籍ニ依
リテ照査セシメ郷貫氏名年齢等毫モ差違ナキヲ詳
悉シ送達書ト共ニ其書類ヲ領シ書記ニ命シテ速ニ
本人ニ送達ノ手續ヲ爲サシム
第二條 書記ハ典獄ノ命ニ依リ其書類ヲ領シタルキ
ハ直ニ看守ニ通報シ看守ヲシテ本人ヲ調所ニ出サ
シメ書記臨席シテ本日某裁判所ヨリ此書類送達ノ
ヲ當監ニ囑託アリタル旨告知シ書類ヲ下付ス若
シ本人平素讀書ヲ爲シ得サル者ナルキハ書記自ラ

書類ノ全部ヲ讀聞セ其旨主ヲ會得セシメタル後
其書類ハ再ヒ書記ニ還付セシメ領置簿ニ登記シテ
本人ノ承印ヲ取り監署ニ領置スルモノトス
第三條 前條ノ如ク書類ヲ本人ニ送達ノ手續ヲ了シ
タルキハ規則ニ從ヒ書記ハ送達書ニ年月日時場所
等ヲ記入シ本人ヲシテ署名捺印セシム若シ本人文
字ヲ書スルヲ能ハサルキハ看守ヲシテ代書セシメ
其理由ヲ付記シ書記之ニ署名捺印シテ其一本ヲ典
獄ニ致シ正ニ送達ノ手續ヲ結了シタルヲ報告シ
捺印ヲ請ケタル後テ書類ト供ニ領置シ一本ハ發出
シタル衙署ニ還付スルモノトス
第四條 裁判所ヨリ在監人ヲ出廷セシムヘキ旨ヲ
照會シ來ルキハ典獄先ツ其出廷ヲ要スル理由ヲ詳

悉シ第一條第二條ノ手續ヲ了シ看守長ニ命シ法廷ニ引致ノ手續ヲ爲サシム看守長ハ看守押丁ニ令シ相當ノ戒護ヲ指示シ其衙署ニ押送セシムル者トス但此場合ニ於テハ書記ハ典獄ノ命ニ依リ裁判所ヘノ回答書ヲ作り典獄ノ檢認ヲ請ケ押送ノ看守ニ付シテ送達セシムヘシ

第五條 在監人出廷ヲ要スル爲メ召喚狀アルキハ規則ニ從ヒ其副本令狀ナルキハ其正本ヲ裁判所ニ還付ノ手續ヲ爲サシム

但何レノ場合ト雖モ在監人出廷ヲ要スル理由ヲ明記セサル書類ヲ領シ輒ク在監人ヲ他ヘ押發スルコトヲ得サルヲ以テ其出廷ヲ要スル法衙ニ向テ理由ヲ質シ然ル後前數條ノ例ニ依リ處辨スヘキ

モノトス

第六條 裁判所ヨリ送達シタル書類ヲ受クヘキ本人若シ在監人ニ非サルキ又ハ一旦拘禁シタルコトアルモ既ニ他監ニ押送シタル者ニ對シ送達スヘキ書類ナルキハ其理由ヲ詳悉シ速ニ書類ヲ發出シタル衙署ニ返還スヘキコトヲ書記ニ命ス書記ハ典獄ノ命ヲ受ケ速ニ書類返還ノ手續ヲ爲スヘシ但シ書類返還ノキ凡テ監署ノ印ヲ押用ス

○賞譽施行順序

一 賞譽ヲ行フハ囚徒行狀視察規程第十三條第六類警守ノ部参照スニ定メタル手續キテ履行シ看守長ノ具申ニ由ルヲ通例ト爲ス或ハ典獄已ニ賞譽スヘキ者ナルコトヲ察知シタル後テ看守長ニ下問シ及ヒ其他ノ官吏又

ハ教誨師等其參考トナルヘキ事項ヲ開陳シタル場
 合ニ於テ特ニ行フアルモノトス

一典獄先ツ其官房ニ在ル行狀簿ヲ審案シ尙ホ勸查内
 規ニ照シ其囚人ノ行爲ヲ通覽シ正ニ賞譽スヘキ時
 期ニ適合スルヤ否ヲ詳悉センカ爲メ特ニ庶務課書
 記ニ命シ名籍ヲ調査シ刑期ヲ分除算定シ其他憑據
 スヘキ書類ニ就キテ精覈セシムルモノトス

一書記ハ典獄ノ命ニ依リ勸查内規及ヒ賞譽調査簿行
 狀簿ヲ精密ニ審査シ其標的トスヘキ諸款ニ適合ス
 ルモノハ相當ノ賞詞狀案ヲ作り典獄ニ致シ其可決
 ナ經タル后ヲ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一先ツ賞詞案ノ全文ヲ賞譽簿ニ登録シタル后ヲ別ニ
 賞詞狀一本ヲ作り典獄ニ呈シ賞表ハ別紙ニ包ミ之

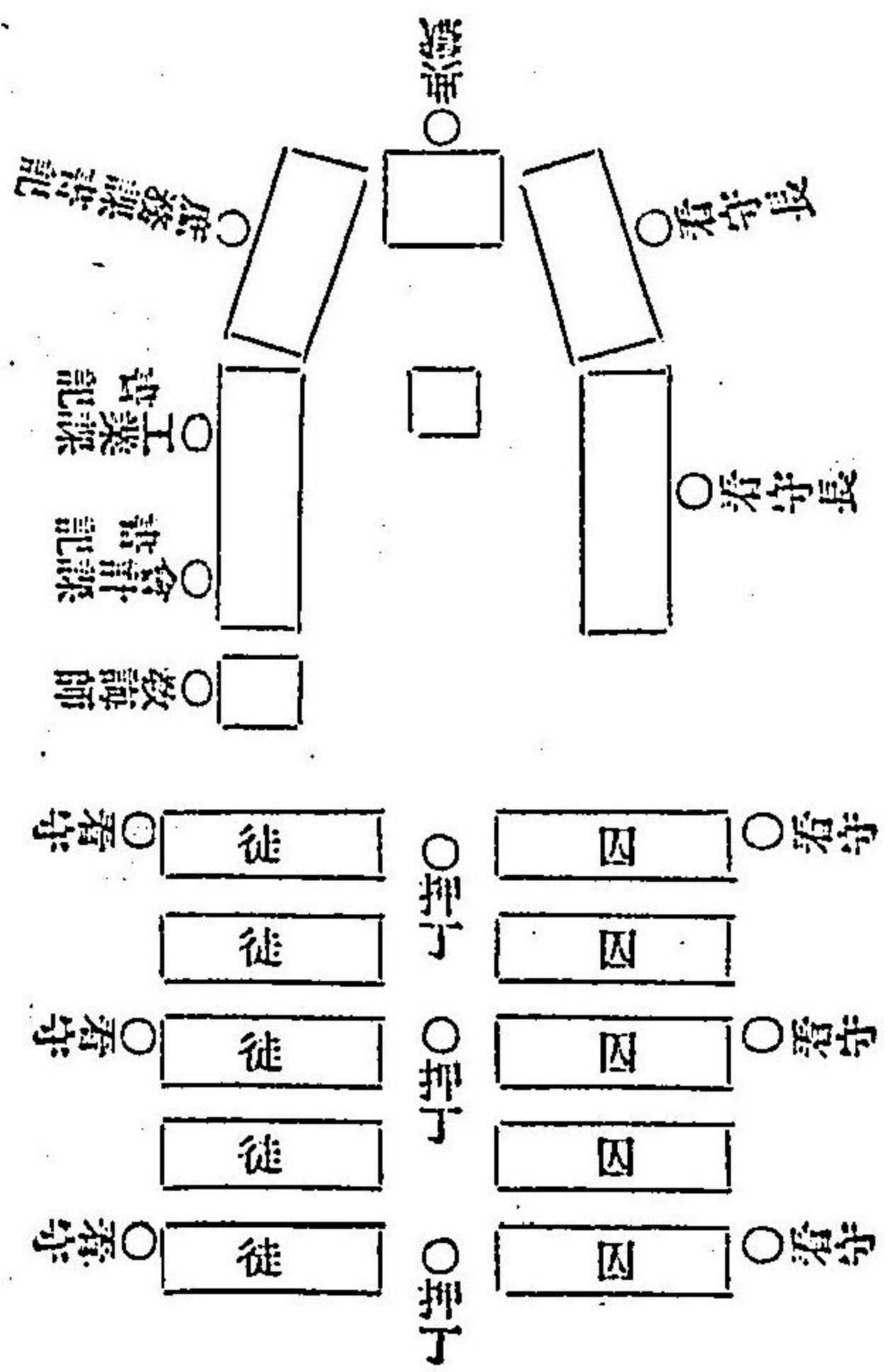
レニ票記シテ賞詞狀ニ添付スヘシ

一賞譽簿及ヒ賞詞狀ニ登記シタルキハ校合檢印シテ
 賞詞狀ト俱ニ典獄ニ致シ監印ヲ調スヘシ但賞詞狀
 ハ典獄式場ニ於テ朗讀スルノ便ニ供シ賞譽簿ハ名
 籍ト俱ニ書記之ヲ管主スルヲ例トス

一典獄賞詞狀ヲ檢シタル後ヲ書記ヲシテ賞表授與ノ
 式場ヲ整理セシム書記ハ典獄ノ命ニ由リ看守長ニ
 通報シ囚徒ヲ式場ニ參聚セシムルノ手續ヲ爲スヘ
 シ

一賞表ヲ授與シ又ハ賞金ヲ與フル等凡テノ賞狀ヲ告
 示スル式場ハ教誨堂ニ於テ執行ス其日時ハ必ス免
 役日若クハ日曜日午後教誨講說ノ席ヲ開ク前トス
 其式場ノ席次左圖ノ如シ

式場略圖



一 看守長ハ囚徒ヲ式場ニ參聚セシメ席次ヲ察サス姿
 勢肅然ナラシメ其時機ノ宜ヲ見テ典獄ニ申報ス典
 獄書記看守長看守及ヒ教誨師等ヲ率ヒ式場ノ卓席
 ニ着ク其看守傳告者ニ令シ各囚一齊ニ敬禮セシム
 ルモノトス

一 庶務課書記立テ賞詞狀ヲ典獄ノ卓上ニ呈シ其復席
 スルキ庶務課員一名別ニ受賞者ノ氏名ヲ呼ビ順次
 ニ典獄卓前凡ソ六歩許リノ處ニ停立セシム典獄賞
 詞狀ノ朗讀畢ルヲ待テ直ニ庶務課書記ノ卓前ニ進
 マシメ其賞表ヲ授與シ別ニ設クル授賞者ノ席ニ復
 セシム但シ賞詞狀ハ典獄ヨリ直ニ看守長ニ渡シ掲
 示ニ便ス

一 右賞表授與畢リテ後々更ニ被賞者ヲ典獄ノ卓前ニ
 並居セシメ懇篤ニ慰撫シ且ツ將來益謹勉シテ其賞
 表數個ニ及ヒ終ニ寛大ノ恩典ヲ受ケ早ク純全タル
 良民トナルヘキ旨諭誠ノ後々尙ホ衆囚ニ向ヒ早ク
 此恩遇ヲ受ケンヲ心掛ケ常ニ謹勉スヘキ等ノ旨
 ナリテ切實ニ獎勵シ諭誠畢ルヲ待テ看守ハ傳告者

ニ令シ各囚一齊ニ敬禮セシメ各員禮式ノ後一同退場ス

一賞詞狀及ヒ賞譽簿調製其他右ニ關スル書類ノ概略左圖ノ如シ

賞詞狀(用紙西ノ内)

某管下國郡町村番地某子弟妻女
族籍

刑期 氏 名

其方儀明治何年何月何日以來獄則チ謹守シ改悛ノ行爲著シキ者ト確認ス由テ監獄則第九十六條ニ依リ賞譽シ其表一個ヲ附與ス

明治何年何月何日 東京集治監

○彙ニ賞譽シ其表數個ヲ付與シタル者ノ賞

詞狀ハ本文(改悛ノ行爲著シキ者)ノ下左ノ三十四字ヲ挿入シ又本文(監獄則第九十六條ニ依リ賞譽シ)ノ下尙ホノ二字ヲ加フ

ニ付彙キニ賞表何個ヲ付與シタルニ爾來倍謹慎ニシテ改悛ノ狀顯然ナル者ト

賞譽簿書式(用紙美濃十三行郵便紙)

明治何年何月何日申渡ス

某府縣下國郡町村番地某子弟妻女

典獄檢印 族籍

期 氏 名

校合檢印

賞詞ハ賞詞狀ト同文

賞譽調査簿様本

賞譽期限内過失ノ有無ヲ査定シ其過失ナキ者ハ○朱圈
 ヲ施シ然ラサル者ハ○黒圈ヲ施スヲ例トス

刑	無	氏名	號番	七	八	二十
刑	無	宮崎鎌次郎		小室重五郎		柳原金太郎
分ノ期三	十五年	明治十年十月十三日		明治十一年十二月三日		明治十一年七月十八日
又五分ノ第一期	三年	十三年十月十三日		十四年二月三日		十四年七月十八日
全第二期	三年	十六年十月十三日		十七年二月三日		十七年七月十八日
全第三期	三年	十九年十月十三日		廿年三月三日		廿年七月十八日
全第四期	三年	廿二年十月十三日		廿三年三月三日		廿三年七月十八日
全第五期	三年	廿五年十月十三日		廿六年三月三日		廿六年七月十八日
殘餘期限						

刑	十	號番	九	五	九	十
刑	十	氏名	尾藤信次郎			住友利十郎
分ノ期三四	六七年	宣告月日ノ	十一月十三日加役百廿二日			明治十年九月十日
又五分ノ第一期	六一年	期一年月日	十三年六月廿九日			十三年九月九日
全第二期	六一年	期二年月日	十五年一月十四日			十六年九月九日
全第三期	六一年	期三年月日	十六年八月一日			十九年九月九日
全第四期	六一年	期四年月日	十八年二月十六日			廿二年九月九日
全第五期	六一年	期五年月日	十九年九月三日			廿五年九月九日
殘餘期限	六二年		二十二年二月三日			

○已決囚賞與時限之日安

七 年	五 年	六 四 ヶ 月 年	四 年	六 三 ヶ 月 年	三 年	六 二 ヶ 月 年	二 年	六 一 ヶ 月 年	一 年	刑 期
三 五 ヶ 月 年	九 三 ヶ 月 年	十 三 年 五 四 ヶ 月 日	三 年	十 二 年 五 七 ヶ 月 日	五 二 ヶ 月 年	十 一 年 五 十 ヶ 月 日	六 一 ヶ ヶ 月 年	十 一 年 五 一 ヶ 月 日	九 ヶ 月	分 刑 ノ 期 三 四
十 一 八 日 年	九 ヶ 月	三 八 ヶ 日 月	六 七 ヶ 日 月	九 六 ヶ 日 月	二 五 十 四 日 月	十 四 五 ヶ 日 月	十 三 八 ヶ 日 月	二 二 十 ヶ 日 月	二 一 十 四 日 月	又 五 分 一 第 一 期
全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	二 一 十 四 日 月	全 第 二 期
全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	二 一 十 四 日 月	全 第 三 期
全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	二 一 十 四 日 月	全 第 四 期
全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	二 一 十 四 日 月	全 第 五 期
九 一 ヶ 月 年	三 一 ヶ 月 年	十 一 年 五 一 ヶ 月 日	一 年	十 十 五 ヶ 日 月	九 ヶ 月	十 七 五 ヶ 日 月	六 ヶ 月	十 四 五 ヶ 日 月	三 ヶ 月	分 刑 ノ 期 一 四

欠

MISSING